

# ASATU



清水らくは

## プロローグ

---

あなたを手に入れたい  
あなたに包まれたい  
あなたに狂わされたい  
あなたの喉にののしられたい

あなたに惑わされたい  
あなたの嘘を知らぬふりしたい  
あなたの都合に振り回されたい  
あなたが溺れていくものに共に溺れたい

それなのに夢のように覚めてしまう  
気がつけば金縛りは解けてしまう  
当たり前拘束具は壊れてしまう  
最後には緊縛師も逃げてしまう

あなたのいない部屋を捨てるため  
あなたの幻影捨てるため  
旅に出ました 遠い世界に  
旅に出るのです 砂嵐の世界へ

あなたを裏切れる  
あなたを消し去れる  
そんな強さが欲しい  
それだけの砂漠紀行、鍵穴を見つけた日

## アイアン・17歳

---

五本の鉄 絡まる迄

視線の熱 抗う影

既成事実 奏でた夜

迷い放つ 首筋這う

嗚呼 月並みよ美を仕え

嗚呼 哀しみよ世に倣え

ただ 眼差しに焼け焦がれ

生 それのみに溺れ行く

杞憂になればよかったのに

永遠のみを信じたのに

黄昏時に分かったのは

沈まぬ物等無いと言う事

五本の鉄 離れる時

二人の断つ 絆の貞

古城月下 誘う夜

迷い絶えず 数え 数え

## 夢

---

血液が循環しない  
夢だと分かっている  
それでも怖い  
死が迫ってくる  
誰か助けて欲しい  
でも見られたくはない  
姿が変わっていく  
私はどこにある  
あなたがこちらに来る  
早く覚めて欲しい

それは多分  
見慣れない現実

血液が循環しない  
悪夢は限りなく続く  
あなたは笑ってる  
なんでもないかのように  
私はどれなのか  
分からないまま覚めていく

## 長い爪

---

或の子の事が少し好きに成り掛けて居たのに  
長い爪の爽やかな花の意味知った時  
私の心はコペルニクスを支持した

彼女の唄う「愛を下さい」  
手に入れるんでしょう  
其の瞳と其の花で

貴方の事を可也好きに成り果てて居たのに  
短い爪は届かない距離の背中探る  
動物園から逃げ出す気持ち

紅の傷私の花は  
是の手で付けた決別の赤  
滲む程に黒に変わる

私は歌わ無い「愛を下さい」  
狂わ無い程に  
花を狂い咲き

## 気になるな

---

どこまで透き通ればいいの

あなたの指令は曖昧で

それよりも 気になるな

気になるな 気になるな

好きになるな

声が出したいのに

私は今ただの被写体

明日もまた

やってくる沈黙

きっとまた 気になるな

気になるな 気になるな

好きになるな

けれどまた 悲しむな

悲しむな 悲しむな

好きになれば

## 地球儀

---

ミルクティーが  
減っていく  
飲んでないのに  
減っていく

宙に逃げた星屑たちは  
いずれまた流星になって  
降ってくるのよ  
どっちにしたって

マイナスイオンが  
感じられない  
どうやったって  
感じられない

ごめんなさい  
私そんなに馬鹿じゃなくて  
傾けた地球儀から  
零れ落ちた赤い液

リップクリームが  
見つからない  
どうでもいいや  
ズボンを脱いだ

出会った五月

話した六月

遊んだ七月

交わした八月

泣いた九月

揺れた十月

誓った十一月

笑った十二月

そして私は靴を履いた

風は急に向きを変えた

撮られた一月

来られた二月

取られた三月

流れた四月

祈った五月

襲った六月

切れた七月

逃げた八月

それは私の決断だった

翼は急に空を目指した

そして私は靴を脱いだ

風に乗って空虚へ舞った



## 欠落

---

あ、それ安かったんだよ  
不揃いだったから きっと  
かごからはみ出したまま  
ずっと出番待ってたんだろうね

でもあなたは  
綺麗なほうが好き  
あなたの粹に  
はまる人が好き

切っちゃったら分からないでしょ  
味にはうるさくないから  
見栄えなんてどうにかなるもの  
そう、どうにかなるもの

## 次の駅

---

ああ 空に 全て託して  
こだわり 挙句の果てに  
くるくると 回る電車に揺られ  
ばらばらの 理屈こねて

成田と羽田を迷って  
私の全てを悟って  
キャミソールじゃ寒くて  
そっと降り出した雨

やっぱりあっちにしよう  
真夏より太陽を浴びよう  
そして涙涸らそう  
コップから全てこぼそう

忘れやすい質だから  
何も用意せずに行こう  
看板が揺れている  
次の駅で下りよう

## 出発点

---

三つ葉を植えた 四葉の森に  
灯りを消した 迷い子なのに  
放っておいて 放置でいいの  
凍えているの 真夏の空で

案山子はどこ ブリキはどこ  
魔法の国で ただ泣き散らす  
終わってしまえ 最終回よ  
震えているの 無表情で

レッツ イッツ ザッツ ナッツ  
セット ゲット ミット ラット  
ラッタ ラッタ ラッタ ブッダ  
ゴッド ゴッド バッド ゴッド

宝石投げた 珊瑚礁に  
涙を流す 正しい時だ  
このままじゃ駄目 それでもただ  
探しているの 出発点を

## 義

---

リングはずしたとき  
トカゲが走り去った  
わからないよ  
正しいとか何とか

ケータイは眠ってる  
切れたキズナ  
頭の線も  
つながっていない

形の義  
言葉の義  
全部捨てて  
砂漠を進む

水色の空  
私を迎えて  
嘘も含め  
過去の血潮

形の義  
言葉の義  
ストラップを  
残したまま

ぐちゃぐちゃ

---

あなたが消えてしまったことを  
悲しむことさえ出来ませんでした  
風の便りではなく  
直接言われた言葉が苦しいです

ぐちゃぐちゃになった  
キーホルダーの鎖  
ほどけないほどに  
絡まっているのに

ファザコンになりきれなかった私に  
沈み込むことの心地よさ教えてくれたのです  
全て委ねても優しさだけじゃなくて  
生きてく強さ感じられたんです

なんでもいいと  
キーホルダー選んで  
指先光ってた  
全部愛しい人

## ホワイトソース

---

それは魔法だった  
前触れなしに  
私の好きな匂い  
ホワイトソースだった

ストロボなしで  
輝いている  
あなたの作品  
私はとりこ

星雲よ あなたには  
何万光年が見えている  
星雲よ 私には  
昨日の光思い出せない

それは一度きりだった  
今ではあの子が  
独占してる  
ホワイトソースの匂い

## コンタクトレンズコンタクト

---

木立から吹き荒れてくる懐疑心がありますが  
今の私には刃向かう術がありません  
時折視点が狂って向こう側が見えてしまい  
そんな恐怖を彼方はお知りでしょうか

粉の砂粒の一つ一つが  
まるで違う形していることなど  
誰も気にとめてはいないのです  
なのに私は立ち止まってしまう  
その愚かさ故の眼差しで  
コンタクトを落としてしまったのです

這いつくばる気さえ起きない無限で  
幾筋かの私の傷が  
誘い誘われて繰り返し  
私もまた砂の一粒になるのです

## くらげ

---

ゆらゆらゆらゆら  
涙が波に流れる  
くるくるくるくる  
回っては落ちていく

くらげが触手伸ばしてる  
私のことを見入ってる

からからからから  
乾いていく砂場  
するするするするする  
逃げていくかにたち

何が消えればいい  
何を手にしていく  
あんなに薄い服なのに  
私よりも強いもの

ふらふらふらふら  
一人きり潮騒を聞く



私の唄う歌をあなたは知らない  
傷付かない振りは心を痛めるのに  
そんなことすらあなたは知らない

二人はどうして装いが得意で  
あんな空間で微笑み合って  
日常で愛してしまうのかって  
スタジオの偽りと偽りのステディ  
雨は傘をすり抜けていく

「27の君を見たい」その時になれば  
新しい17があなたを彩るはず  
そのカメラは現実を切り取れない

緑のつめ安いペンダント白いくつ  
失う頃忘れた頃  
転写された私色あせていけばいいけど  
コピーされたデータは残るんだろう  
27の私は何を唄うのだろう

## リング

---

這い上がり羽を伸ばして  
飛び上がり蜜を吸って  
それでもあなたは顔色を変えない

白い風に吹かれ  
淡い光受けて  
もしさなぎに戻れるのなら  
殻破る術忘れてしまいたい

草むらに落ちた足  
土くずに絡まった心  
最後まで見えなかった花  
全てを無効にする言葉  
曖昧に済ましてきた涙腺  
私なりに飛びたかった大空

今卵になり繰り返す  
生まれる日は私が決める

## 朝顔

---

終焉

求めて 伸びて 伸びて

自由

忘れて 媚びて 帯びて

手摺登る朝顔

花を咲かせるため？

終焉

認めず 朽ちて 朽ちて

孤独

耐えて 老いて 還る

空 今 風

命つないで

花は夢の中へ

## ざわめき

---

急遽雨は窓を打ち  
空虚な部屋をざわめかす  
頻度の少ない自愛を戻し  
金魚鉢の泡を凝視

切り刻まれた情熱  
透き通った音質  
孤独が結界を張り  
生命の起源を痛感

変わる 触る 私  
上がる 香る 陰り  
冷める 愛でる 祈り  
抗う 奏でる フィナーレ

証拠全て繰り返し  
末路笑い思う  
答えを書いて送信  
突如消えたざわめき

## 強さ

---

祈らない 誰にも  
黙らない もう二度と  
偽らない 何があっても  
上回らない 愛する気持ち

さよならは凶器  
三度呟いた  
追憶は禁止  
胸に彫りこんだ

どこにも答えとかないから  
生きる意味は創らないとないから  
次までの橋渡しなんかじゃなくて  
放浪する心を自由に遊ばせる

祈らない  
黙らない  
偽らない  
でも 言い切れない

## 迷子

---

ふらふらふらふらしてるけど  
まだまだまだまだ戻れない  
私のかあいさどこいった  
ここにもないやもういいや

ただただただただ切なくて  
くらくらくらくらしてくるの  
砂漠の真中置き去りだ  
どっちがどっちかわかんない

## 砂漠行進曲

---

三つ葉 三つ葉 みんな 三つ葉  
三つ葉 三つ葉 みだら 三つ葉  
あなたにとって 私にとって  
分かり合えたら 三つ葉 三つ葉

サラダ サラダ さがす サラダ  
サラダ サラダ さかな サラダ  
体にとって 心にとって  
分かち合えたら サラダ サラダ

考えること 悲しめること  
のどかわくこと おなかすくこと  
全部 全部 噛んで あえて  
曲がりなりにも 全部 全部

くもり くもり くるり くもり  
くもり くもり くらり くもり  
あの子にとって 誰かにとって  
笑い合えたら くもり まもり

アニマ アニマ あらら アニマ  
アニマ アニマ あたり アニマ  
男にとって 女にとって  
わだかまりから アニマ アニマ

影踏めること 殻破ること  
街目指すこと まだ目指すこと  
ダンス ダンス 耐えて 癒えて  
歩み出すこと ダンス ダンス

## 時代

---

影が伸びて  
私を運ぶ風  
何故世界は生かしてくれるの  
我儘に叫んだ

走り去る虫  
飛翔する鳥  
全ての連鎖を受け入れている  
心を包むものは何

あの人は少し冷たくなった  
二の腕だけが私を撫でた  
この広い世界の中で  
たった一人の人だったのに

砂粒が舞いすさぶ  
繋がらない電話を持つ  
何もかも変わらない  
ただ私がここに居る

影が消えて  
私が眠るとき  
星が流れ落ちた  
時代を変えるべく



## シャッターチャンス

---

買ったばかりのデジカメ  
見せびらかしてたからには  
さあ、大胆になるから始めてみてよ  
私のこと狙ってるんでしょ？

作りたての干渉ゲート  
二人にとってのパノラマナイト  
でも今だけはプロ級の二人  
ここから先はプライベートでいい？

思い出にするためなら  
もっとよそ行きの笑顔にするよ  
全部わかっているくせに  
宝物作りたがっている場合？

いつのまにか手ぶらになって  
その瞳が連続シャッター  
この胸に焼き付けるだなんて  
その台詞はアマチュアすぎるよ？

## バトルベイビー

---

ライブハウスで笑ってた横顔  
あんなに優しげだったから  
嫌いになりかけてたこと  
全部忘れて一緒に揺れてた

印刷して出すまでは  
正解なんてわからないと  
何種類も色試してた  
女の子もそうやって選ぶでしょ

バトルベイビー しがみつくなんて  
かっこ悪すぎて出来なかったけど  
一人の今になって思えば  
いつでも心は絡み合っていた

バトルベイビー 私は時々  
偽りの顔だってこと知ってたのかな  
あなたに会う前は気合入れて  
いつもより素敵な眉で勝負かけてた

買ったばかりのCD鳴らし  
駆け抜けるトンネルの向こう  
感動してるの隠すためだけに  
大きめの帽子で表情隠したりした

どうしようもないほどの想い  
涙で流した夜だけは  
本気が全部溢れ出して  
初めてあなたを独り占めにした

バトルベイビー 独り善がりでも  
最後には幸せ待ってるような  
少し意地っ張りのヒロイン  
13話の物語に憧れてたのかも

バトルベイビー 今は遠くにいる  
恋焦がれた人のこと忘れられない  
今になって言えることは  
今でもあなたに勝てないってこと

## MAGIC2500

---

昨日買ったの  
仕事の後で  
2500円の香料  
マーキングするため

失うのを  
わかっている  
失うのは  
怖いから

どれだけつなげるの  
誰から守れるの  
いつまで続けるの  
全て香りに混ぜて

魔法は効いている  
いつか消えるけど  
今だけは全て  
私のものでいて

意気地なしの蠋螂

誰も傷つけられない  
おなかが減っても黙って  
誰にも触れられないよに  
だけどふざけた偽善者が  
それこそ美しいだなんて  
彼を褒めだしてから  
少しずつ狂っていった

信じたい奴のために

何かを当てはめなくちゃ  
やってらんないこんなことじゃ  
ただありのままじゃ恐かっただけ

意気地なしの蠋螂

皆が真似ばっかするから  
おなかが減ったことも忘れて  
自分の形を思い出さなきゃなんない

意気地なしの蠋螂

誰も傷つけられない  
おなかが減っても黙って  
誰にも触れられないよに  
だけどふざけた偽善者が  
それこそ美しいだなんて  
彼を褒めだしてから  
少しずつ狂っていった

信じたい奴のために

何かを当てはめなくちゃ  
やってらんないこんなことじゃ  
ただありのままじゃ恐かっただけ

## 最高の夏の日

---

コップの中で溺れていた  
君を見た日から  
ボクはどんな風にも  
君の浮き輪になりたかった

初めての恋  
まだボクはおかっぱで  
自分のこともずぼらで  
かわいくはなかったけど

カブトムシに襲われている  
君のその情けなさに  
ボクをつむじから  
ハートが出てしまったんだ

君を抱きしめて  
ダッシュして  
二人だけの島に行きたい  
何もかも  
分かち合って  
宇宙を支配したいんだ

## 蝶

---

食べて食べて寝て  
食べて食べて寝て  
ねえ 本当は  
幼虫が一番楽しい

すねてるのは  
蝶でしょう  
翔んでいるのは  
落ちる時のため

ああ でもね  
何も知らない卵たち  
あなた達が一番  
幸せなんでしょう

## パイナップル

---

この思い届かないままなら  
あなたを越えた愛になればいい  
だけどそこには  
花が咲くばかりで

パイナップルは  
甘すぎるから  
私のことを  
騙そうとしている

あの子の背中に  
浮かび上がる笑顔  
包み込む愛なんて  
私には有り得ない

果実の中で  
出番待つ種  
花に成りたいとは  
願っていないはず



## 恋に落ちたの

---

ペけペけペー  
ペけペけペー  
また駄目出しだ  
ペけペけペー

とことことー  
とことことー  
また逃げ出した  
とことことー

まるまるまるまる  
下さいな  
あらあらあらあら  
優しいね

とととととー  
とととととー  
恋に落ちたの  
とてちてとー

## ホテル

---

化粧液の瓶が落ちた  
絨毯を転がる  
今日は、もういいや

布団に倒れこむ  
今日を思い出す  
何があったっけ

小さな幸せのために  
努力しろなんて  
あなた何様のつもり

消えたい思い  
いけない誓い  
本当は、残酷な夜

初めての空  
黄色い土  
白い心

癒えた呪い  
見えた名残  
本当は、未練がある

化粧液の瓶を拾い上げる  
状況は最悪だ  
今日は、おしまいにしよう

## 丸い朝

---

疑い深いでしょう是の手は  
未だ彼方居る日を仮定して  
ゆっくり私に戻って来る  
目覚めは何時も影踏み

笑い方変えた月日は  
お菓子みたいな I want you

噂は単調でしょう勿論  
過ちすら含んだ規則で  
真っ直ぐ形を造ってくれる  
神楽に宿った墮落

甘え方貫いた月日に  
可笑しい限りの I miss you

円を描いて探る果物  
朝の音の足りない朝

## あまやどり

---

千代紙ばらばら馬の子ほいほい  
今日もかかった駱駝はこちら  
磨き粉ちよろちよろ氷はどこだ  
いかれた太陽私を止めた

変わったあなたの帰りを待った  
翳った月日の光を拭いた  
砂粒さらさら流れて落ちる  
私の涙は五秒で乾く

挨拶そこそこTシャツ代える  
色目のあいつは妄想ふける  
私の貞操とにかく守る  
蠍のはさみが雨水呼んだ

なけなし路銀を天井投げる  
削り粉ただらで行き先不明  
鼓動も不定の剣客気分  
恋の留め金値引きはいつだ  
鯉も登れぬ滝壺の中  
故意の悪意が作為を超えた

# 海

---

ほら 小さなことは 忘れられそう

海 それだけで 優しくなれる

ビールを飲んだら

エッチをしよう

波の音が

聞こえるうちに

だって今日で 終わりだから

だって明日は ばら売りだから

まずいな まだ愛してるかも

まずいな あの子に負ける気しない

チケット 鞆の中 待ってる 強い私

リセット 出来ない距離 今も強く滲んで

ほら 孤独な貝が 夕日を見てる

海 さようなら 思い切りバイバイ

# ASATU

---

人って何で  
名前知りたがるんだろう  
私を覚えてよ  
この体の全てを

私を呼ぶ声  
振り返ればきっと  
幸せを思い出して  
今を不幸にってしまう

誰もが私を  
ASATUと呼ぶから  
私はいつでも  
ASATUを演じる

人って何で  
名前忘れるんだろう  
私を覚えてよ  
記憶の真中で

私の知らない  
あなたの姿を  
知ってしまったから  
全てが変わった

あなたが私を  
ASATUと呼ぶから  
私はいつしか  
ASATUになった

誰もが私を  
ASATUと呼ぶのに  
私は時折  
ASATUを疑う

## あとがき

---

少女の物語を紡いで見ました。

どこまでが現在で

どこまでが現実かもわからない旅。